



鴨川市

思いがけず、就農することになった亨さんと美亜子さん。田んぼが台風の被害を受けるなど、予想できない事態もあるが、「誰に言われるわけでもなく、自分の好きなことだけやっているから基本的に楽しい」とのこと。店は週末のみ開けているが、農作業や子どもの学校行事などで臨時休業することもある。

子育てのために鴨川市へ。 カフェと器の店を営み、 棚田を耕す日々

うつわ+cafe 草so
はたなかとろ
畑中亨さん、美亜子さん

生まれも育ちも東京の二人が、子どもと向き合う時間を増やそうと鴨川市に移住。器の店兼カフェを営み、亨さんはエディトリアルデザイナーとしても活動中。

通勤時間をゼロにするため 店舗兼住宅を建てた

木々がうつそうと茂る山道から細い脇道へ折れて、登り坂をさらに進んでいく。すると、棚田をのぞむ風景がひらけ、板張りの建物が目を引く。畑中亨さん、美亜子さん夫妻の店舗兼住居「うつわ+cafe 草so」だ。

東京で器の店を営んでいた美亜子さん、同じく東京のデザイン事務所に勤めていた亨さんが二人の娘とともにこの地に移り住んだのは2010年4月。移住を決めたのは、子どもと過ごす時間を増やしたかったからだ。移住するまで、美亜さんは週6日、店まで1時

間弱かけて通っていたが、出産後はそれもむずかしくなった。

「彼女のことを思うと、店と家が近いから、同じ建物がいいんですけど、都内の物件では予算などの条件に合うところがない。それで移住を考えはじめました」

亨さんは会社を辞め、フリーランスのデザイナーとして働きながら移住先を探した。

「彼女の父親が房総で農場をやっていたことがあって、なんとなく縁を感じていました。土地だけならあると案内されたのがここ。棚田を一望できる眺めに惹かれて家を建てることに決めました」

知人に設計を依頼し、着工したのは2009年5月。途中、土留



めの追加仕事を挟み、同年暮れに上棟を迎えた。2人目の子どもの出産も重なったが、2010年4月、晴れて引越しが完了。

シンプルであたたかみのあるカフェの内装は、ほとんどDIYで仕上げた。

「椅子はアンティークショップで購入したり、実家のものを自分たちで色を塗り直し座面を革に張り替えました」と、美亜子さん。

亨さんが内装を仕上げた別棟の小屋では、器を展示販売している。さらに現在、物置小屋を建設中。建物のかたんなメンテナンスなら、自分でこなしてしまおう。

「そこが自分でつくるメリット。コストをおさえるだけじゃなくて、建物の仕組みもわかる」

美しい風景に魅せられて 米づくりに挑戦

移住して7年目となる2016年から、本格的に農業を始めた。家に隣接した、1年間耕作されなかった5反歩の棚田をやらないかと近所の方から声がかかったのだ。移住後、ごく小さな畑と田んぼはやっていたが、「まさか本格的に農家になるとは思いませんかつ

た」と亨さんはふり返る。

「やってみようと思ったいちばんの理由は、棚田がきれいだから。棚田の風景は、地元の人たちが長い時間をかけてつくりあげてきたもの。それを守る手伝いをしたかったんです。それと、農作業して

いる人たちが高齢なことも気がかりでした。受け継がれてきた生きた技や知恵を学ぶ、最後のチャンスかもしれないと思ったんです」

就農1年目の2016年は、房総半島を3つの台風が直撃。稲刈り前の畑中さんの田んぼも大打撃を受けた。ドロドロになった田んぼでの稲刈りは、大変な重労働。それでも、亨さんは満足げだ。

「結構忙しいです。田舎暮らしのんびりしたイメージとはかけ離れていますね（笑）」

美亜さんも、ここならではの働き方に気づいたという。

「平日は田んぼや畑の草刈りとカフェの仕込み。週末はお店。冬はストーブ用の薪の準備もあります。毎日やることがありすぎる（笑）。いまは暮らすこと自体が仕事です」
日々忙しく働きながらも、二人は趣味と仕事を両立させた、いまの暮らしを楽しんでいる。



こんなイイところ

畑中さんご夫婦に聞いた 千葉ぐらしあれこれ

現在の生活の満足度は？

とても満足しています。大変なこともあります。自分で決めたことなので。好きなことしかやっていないんですよ。

自宅のこだわりは？

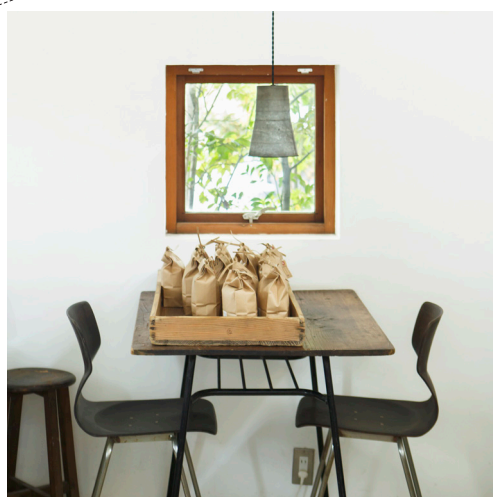
内装や家具などはDIYやリメイクで自分たちの手で仕上げました。

鴨川のよいところ

空気がきれい。棚田の景色がすばらしい。近所の方にもよくしていただいています。

移住者に必要な心得は？

よそ者ヅラせず、コミュニティに入る意志を示すこと。隣組という地域組織に加入して、草刈りや溝掃除などの共同作業や飲み会に参加しています。



(右上から時計まわり) 手づくりの看板がカフェの目印／厨房でジャムを仕込む美亜子さん／稲刈りが終わった田んぼを、愛犬のよつばと歩く亨さん／店で取り扱う器。カフェでも同じ作家の器を使う／オーガニックのドライフルーツも販売中／テーブルの上にあるのは今年収穫した米を販売用にパッケージしたもの